

## 屋久島の紀元杉と

## 種子島の鉄砲伝来の地を巡る

8月25日～27日屋久島と種子島を巡るツアーに友夫婦と一緒に参加した。長年の希望であった屋久島に、やっと思行くことが実現した。

### 1 屋久島だけでなく、種子島も巡る

これまでに計画しながらも実現できなかったのが、屋久島の旅である。数年前に計画した時には台風の直撃を受け旅行は中止となり、それ以来あんなに行きたかったのに気が向かなかった。しかし、その後は屋久島と種子島を回る旅が多くなり、且、チャーター便で直行するツアーが JTB 旅物語から発売された。その内容は名古屋県営空港から FDA のチャーター便で種子島を往復する、8月25日のみの出発限定というもの。そして、種子島空港では鉄砲隊の歓迎セレモニーでお出迎え、種子島と屋久島の往復はジェットフォイル利用。料金も2名一室99,800円とかなりお値打ちとなっている。そのうえ曜日と出発・帰りの時間も私には都合のよいものであり、友に話すとこちらもすぐ OK となり参加決定となった。

### 2 FDA の機体はとてもカラフル



傘をさして乗り込む

空港出発は 11:25、集合は 10:45 そのため 9:00 頃に家をでた。都市高速を通るので渋滞も懸念されたが、日曜日のため混雑もなく 10:00 少し前には到着した。受付を済ませてからコンビニで買って来たおにぎりを食べる、早めの昼食はこれで OK。搭乗は 11:10 から、フィンガーコースに出ると雨がかなり降っている。左手に赤色の機体、右手に黄色の機体が駐機している、搭乗口は A、B、C の三か所あり、一番先

にあるAからの搭乗だった。そこには青色の機体が私たちを待っていた、タラップまで少し歩かなくてはならないが、さすがである、そこでは傘を準備してくれていた。タラップを上るときに傘を手渡して機内の人となる。席は19列あるうちの14列目、左右に2席ずつあるので76人乗れる飛行機。この飛行機はブラジルのエンブラエム社製、機体はERJ170でERJ175だと84人乗れる。このERJは現在三菱が開発しているMRJと同じような表示だが、初めのEとMは会社の頭文字で、次のRはリージョナル(地域)の頭文字、Jはジェットを示す。つまり、地域間を飛ぶ飛行機を意味している。

FDAは富士ドリームエアラインズという会社で、2009年富士山静岡空港を拠点にスタートした。今は富士山静岡・県営名古屋・信州松本を拠点に12路線、毎日46便を運航している。名古屋からは青森、花巻、新潟、高知、福岡、熊本に定期便を飛ばしている。所有する機体は7機で、それぞれに違う塗装を施しているのが特徴。#1は真紅、#2はライトブルー、#3はピンク、#4はグリーン、#5はオレンジ、#6はパープル、#7はイエロー。普通は維持費を考えると同じ機種で同じ色が多い中、特徴を出すための施策と思われるが、今度は何色かなと楽しみがあってよい。それと、この会社には60人のパイロットがいて1名だけ女性がいる。それも元々は農業を専攻していたが、飛行機にあこがれてパイロットになったとか。これらの情報は機内にある備え付けの雑誌から得たもの.....



歓迎のお出迎え

### 3 種子島空港では鉄砲隊のお出迎え

着陸寸前は飛行機が小さいためか少し揺れが大きかったのが気になった。予定通

り 13:00 に無事に着陸して、誘導路ではなく滑走路を U ターンしてエプロンに向かうのがローカル空港らしい。つまり、誘導路はないのだ。タラップを降りると「おじやり申せ 種子島」の横断幕が飛び込んでくる。ターミナルへ入ると法被姿の観光協会のみなさんが、こちらも横断幕とぬいぐるみで歓迎してくれる。そして、ターミナルの外で会長さんの歓迎あいさつに続き、武者姿の 3 人が種子島の立ち姿勢と立ち膝姿勢での発砲を見せてくれた。驚いたのはその音の大きさを、森岡の村木砦の戦で信長が初めて鉄砲を使ったというが、飛び道具の威力よりも兵たちは音に驚いたのではないかと、言われているのがうなずける。



ものすごい音にびっりした種子島の発射

#### 4 種子島あれこれ

30分ほどの歓迎セレモニーが終り、「大和観光バス」2台に分乗して鉄砲館へ向かう。確か今回の参加者は74人で添乗員2名の76人。つまり、飛行機に乗れるだけ乗ってやってきたわけだ。

鉄砲館は西之表市立「種子島開発総合センター」で、たくさんの鉄砲を展示していることから鉄砲館と呼んでいる。種子島空港は島の中央部に位置しており、北部の西之表市へは海岸線を北上する。バスが走りだすとガイドさんが種子島についていろいろな話をしてくれる....まずは種子島の挨拶から教わる。

☆種子島でこんにちは...「メッカリモーサン」

☆天文12年(1543)8月25日種子島の南端、門倉岬にポルトガル人を乗せた明国船が漂着して鉄砲が伝わった

☆島は 445 km<sup>2</sup>、最高 282m、長さ 57km、1市2町人口 32,000 人

☆年平均気温は 19.6 度、サツマイモ、サトウキビ、米、海からは青のり、ながらめ（とこぶし）、旭ガニ、伊勢エビがとれる

☆トビウオは普通 100m～400m 飛ぶ

☆モンキーバナナがとれる、バショウの木も多いがその違いは、葉脈が斜めに延びているのがバショウ、直角に延びているのがバナナ

☆砂鉄が多くとれハサミ、包丁は絶品、鉄砲が造られたのもここに起因している

☆甘藷栽培の地、初めは葡萄のように実がつくと思っていて棚を作ったという

バスは美しい海を見ながら国道 58 号の海岸線を走る、途中には夫婦岩もあり砂鉄の混じった黒い砂浜も。途中に日本甘藷栽培初地の碑と言うのがある、最初にサツマイモを栽培した地という。その近くには下石寺と上石寺がある。その少し先に種子島自動車学校があり、芸能人の武田鉄也はここで免許を取ったそうだが、その腕前はとてもどんくさかったとか。

## 5 鉄砲伝来とその秘話

鉄砲館は西之表市立の種子島開発総合センターというのが正式名、でもそれでは分かりにくいことと鉄砲を多く展示していることから「鉄砲館」と呼び、入館料は個人 420 円、団体 360 円。

展示は民具にはじまり種子島の丸木舟、土器、種子鋏、芸能、国内外の鉄砲である。ここでは何と言っても鉄砲について見聞きしたいもの、鉄砲の伝来については当時の様子を再現したジオラマがあつてとても興味深い。館内は撮影禁止のため記録を残すのが難しいが、いただいたパンフレットとガイドさんの話を整理してみた。



鉄砲館



14代島主の種子島時堯

## 鉄砲の伝来

- ①天文12年(1543)8月25日種子島の南端、門倉岬にポルトガル人(フランシスコ・ゼイモト)を乗せた一隻の明国船が漂着しました
- ②14代島主の種子島時堯(たねがしまときたか)は彼らが所持していた2丁の鉄砲を2,000両で購入。一丁は島津氏を通して將軍足利義春に献上した。
- ③時堯は自ら鉄砲の試射を行いその威力に感じ入り、鍛冶師の八板金兵衛清定に鉄砲造りを、火薬の製法を條川小四郎に命ずる
- ④伝来から1年を待たずして国産化に成功
- ⑤その製法は瞬く間に大阪の堺、滋賀県の国友へと伝播し、大量に造られるようになる

## 鉄砲造りにまつわる悲話

鉄砲と火薬づくりのなかで、火薬づくりは順調に進んだが鉄砲造りは困難を極めた。八板金兵衛清定は苦労を重ねるが、どうしてもうまく造ることができず、このままでは殿様にたいして申し訳がないと困ってしまう。困り果てた八板金兵衛清定は娘の「わかさ」をポルトガル人に差しだして、鉄砲の造り方を教えてもらうことに。

そして、娘のわかさはポルトガル人とともに異国へ旅立ってしまう。娘は父母が恋しくていたたまれなくなり、ついに日本への帰国を願うようになる。一年後に帰国がかない、父母のもとへ帰ることができた。

一方、造り方を教えてもらい鉄砲は完成するが、しかし、試射に失敗する。その後、苦労の末やっと完成させることができた。これでこのお話が終わるなら何の問題もないが、実はポルトガル人は娘わかさを迎えにやってきた。しかし、八板金兵衛清定は娘が死んでしまったことにして帰ってもらう。そして、わかさは出家して尼さんになったと言う。

### 14代島主の種子島時堯とは

戦国時代の島津氏の家臣で種子島氏の14代領主(島主)。天文12年(1543)8月25日種子島の南端に明国船が漂着したとき、彼は数え16歳。弘治元年(1555)島津氏の命で蒲生攻めに加わり、永禄以後(1558～)は大隅の肝付攻めに家臣団を派遣している。晩年は大隅の禰寝氏と抗争し、屋久島に築城したといわれる。

鉄砲館の隣は緑いっぱいの小高い丘で、そこには赤尾木城跡の小さな碑があり、若き時堯のりりしい姿の像が立っている。左手に太刀を持ち右手を肩辺りまで上げて、今にも語りかけてくるようないでたちだ。



## 6 鉄砲まつりを見学

このあと西之表港のターミナルへ移動し、17:55のジェットfoilに乗るまでの時間はフリータイムとなる。1時間45分を使って各自思い思いに「鉄砲まつり」を楽しむのだ。でも、お天気はよくなりカンカン照りで、港から街まで歩くだけで疲れてしまう。おまけに街路樹は一本もなく、南国の日差しは容赦なく降り注ぎ、暑さに弱い私にはとても苦痛だった。要所要所に張られたまつりのポスターには、「鉄砲伝来470年記念・第44回種子島鉄砲まつり」、「伝えたい、共有したい物語がある。種子島伝来470年の夏」とあり、薄い赤色をバックに3人の武者が鉄砲を構えている構図はすばらしい。

海岸通りに着くと、鉄砲まつりの幕をつけた車と赤い法被に菅笠の一团、菅笠に浴衣の一团などが踊りながら行進していた。道の両側にはかなりの見物人がいて、まつり気分を高めている。見ているといずれのグループもたくさんの人たちが参加しているのが分かる。次には顔に面白い化粧をした種子島高校の女子生徒たち、野球のユニフォーム姿の高校生たちがはやしたてながら進んで行く。今度は九州電力の社員がやはり菅笠に法被姿でやってきた。店先にいる地元の人に少し話を聞いてみると、踊りながらおよそ1~1.5km練り歩くのだと言う。しかし最近は参加者が減ってきているそうだ。それでもこんなに盛大にまつりが行われることはすばらしい、離島ゆえの悩みもあるのだと思うが、まつりに多くの人たちが集まるのはすばらしいことだ。ルールで縛るとか強制するのではなく、人々の思いが結集している表れではないだろうか。



踊りながら進む女子高生



トレーラーの上の大太鼓

そんなことを思い見ていると、今度は種子島鉄砲太鼓の幕を張った大型トレーラ

ーがやってきた。大太鼓 7 つ小太鼓 2 つで演奏している。メンバーはいずれもはかま姿の女性ばかりだ。これは島では女性が強いことのあらわれかな、ふとそう思った。すると今度は鹿児島県タバコ組合のみなさんが、「タバコはやっぱり国産だ」の横断幕をもってやってきた。なるほど、タバコは国分と歌われるくらいだからね、でも、ここ種子島でタバコの栽培が盛んとは聞いていない。すると今度は大漁旗をつけた船がきた、その後ろには JA の車も見える。このように地域ぐるみでまつりが行われていることは、地域の活性化策でもあると思うが、すばらしいことだと思うと同時にうらやましいとも思う。

日陰に入って見学していたがかなり蒸し暑い、ここまで祭りを見物して退却することにして港のターミナルへ戻る。どこかに喫茶店はないか探すが、ここは愛知県ではないので見つからない。やむを得ずターミナルで小休止することに。

そして、17:55 トッピー 3 号に乗船して屋久島へ向けて出発する。このトッピーとはトビウオから命名したもので、地元の人たちはトビウオのことを「あご」と呼ぶ。席は 1 階の F43 と F44、シートベルトをして席に着き、カーテンも閉められて外の景色も見えず退屈な船旅と言える。アナウンスでは時速 70km で航行し、45 分ほどで屋久島の安房港へ到着する。予定通りうす暗くなった屋久島の安房港へ 18:40 到着し、ここから 30 分ほどバスで移動して宮之浦の田代旅館に到着した。あわただしくお風呂に入って 19:40 夕食、さほどのものはなかったが、それでも旭ガニ半分、刺身、ハモのしゃぶしゃぶなどがありまずまず、なかでも揚げたてのトビウオのさつま揚げはおいしかった。

## 7 ひと月に 35 日雨が降る屋久島

二日目は 7 時に朝食を済ませて 8 時に出発する。朝、宿の人に聞くとこのところ屋久島は雨が降らず、昨日この夏初めての雨が降ったという。二日目のきょうは屋久島の東側半分ほどの名所を回る。予定では千尋の滝、ヤクスギランド、紀元杉、午後にガジュマル公園を観光して最後に屋久島観光センターへ立ち寄る。

宿を出て昨日来た道に戻り安房まで走る、屋久島は島の周りに道路がへばりついているが、大型バスでは一周することはできないと言う。島の西側に西部林道があって、ここは狭い道路なので普通車でないと通行できない。昨日はよく見えなかったが、海岸にほんの少し平らな部分があるものの、すぐに山が迫っている。周りは木々の緑しか目に入らない、ガイドの説明してくれた屋久島とは.....

☆島の産業は漁業、農業、林業と観光業。最近では山岳ガイドも盛んだと言う。農業は米作り、タンカン・ポンカン栽培。2～3月はタンカン、春には米作り、野菜作り、12月はポンカンと忙しい。タンカンは冷凍保存ができるそうだ。これらミカン園は電気柵で囲って猿等の被害から守っている(イノシシ・クマはいない)

☆屋久島は周囲 132km、町はひとつだけ人口は 14,000 人、電気は水力発電で自給自足している

☆屋久島の杉は本土の杉より油分が 10～20%多い。ゆっくり成長するので年輪が細かい。花粉は飛ぶが雨が落してしまうので、花粉症はないとか

☆屋久島は 1,000 万年昔地殻変動で隆起してできた。現在島の 20%は自然遺産に指定されている

☆屋久杉というのは杉の中でも樹齢 1,000 年以上のものを言い、1,000 年未満はコスギ 100 年未満はジスギと呼ばれる。ちなみに縄文杉は 7,000 年、紀元杉は 3,000 年

☆九州一高い山「宮之浦岳」1,936m がそびえ、冬には雪が積もる。ひと月に 35 日雨が降ると言われるほど雨が多い



千尋の滝を背に

## 8 大自然の中の千尋(せんびろ)の滝

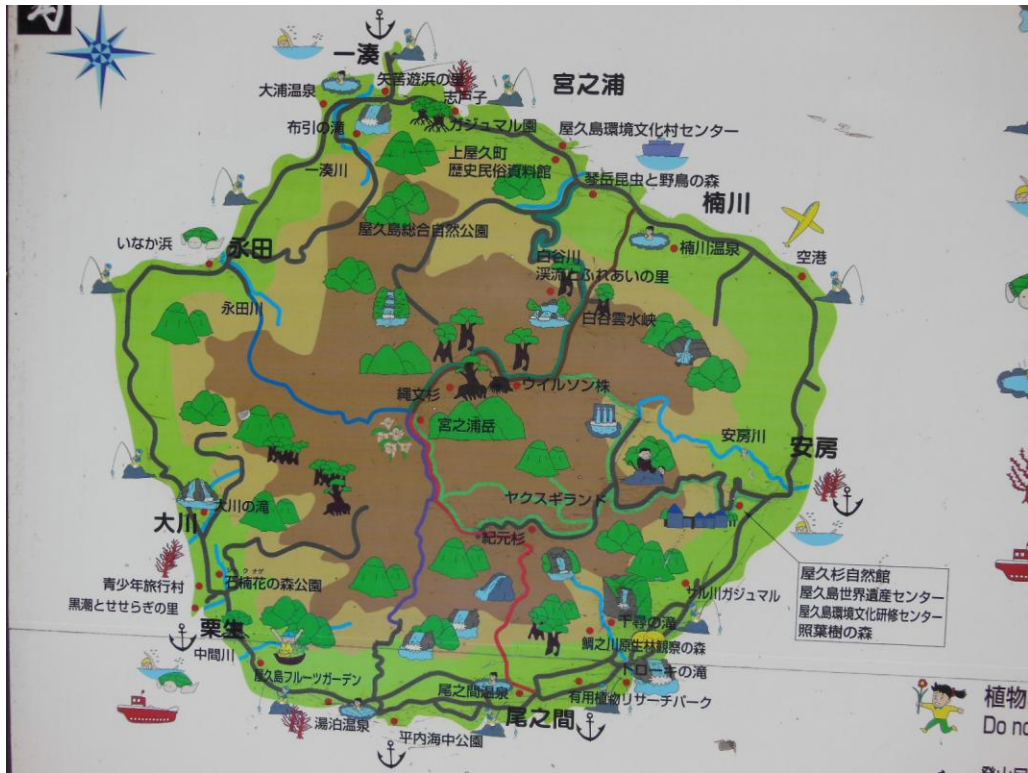
海岸道路を行くと屋久島空港の隣を走る、この空港は平たん地が少ないことから海岸線に並行して 1,500m の滑走路が作られている。大阪の伊丹と福岡を結ぶ定期便がある。道沿いにはハイビスカスの花があちこちに見られる、それと紫色の花がよく咲いている、垣根にからんでいるつる状のもの

で「ツンベルギア」というそうだ。しばらくして山側へ進み道幅も狭く、一方通行ではないので対向車が多い季節は大変だろう。ポンカンやタンカンの畑の横を通り進む道は、周りの木々がバスに覆いかぶさるほど。40分程行くと峡谷の橋を渡るが、そこから山側に竜神の滝を眺めることができ、山はどんどん深くなって行く。ほどなくして千尋の滝へ到着する、駐車場にはお土産屋さんがあり、石に刻印した千尋の滝の案内と名物「かからん団子」の看板がでていた。そこから少し行くと視界が広がり、緑の山並みと大きな岩盤の上を流れ落ちる滝が目飛び込んできた。千尋の



滝である、この滝の名前の「千尋」というのは隣の岩の広さが、人が両手を広げた長さを一尋と言い、それが 1.000 ある長さという意味。

すばらしい眺めを堪能して記念写真を撮ると、お店屋さんに戻りお土産の物色が始まる。私たちは「南の島のタンカン娘」というタンカンゴーフレットをお土産に、それとお茶の代わりに屋久島の水を買い求めた。駐車場には展望台があり、上がって見ると小さく見える家々と海岸線が、反対側には屋久島の山並みが連なっている。



屋久島の観光地図

## 9 大自然の森を歩くヤクスギランド

10:10 ころヤクスギランドに到着する、そこへヤクシマザルが出てきてお出迎えしてくれる。それまでは降っていたかと思うとやんでおり、また降っていたりしていた雨が降り続けるようになった。森林環境整備推進協力金(団体 250 円)を支払ってガイドさんの後に続く。標高 1.000m の大自然の中に遊歩道を整備して多くの人が見学できるようにした施設。狭い通路は木道であったり、一部には階段もあった

りする。傘をさして一列で進むためガイドさんの説明はまるで聞こえない。でも所要所はパンフレットにあるのでさして困らないが、こんな時のガイドは一工夫してほしいもの。

**土埋木**…最初におうと見るのが是、伐採した後の切株だが大きなものがそのまま残っている。江戸時代に伐採された屋久杉は、割れやすい木を選んで加工しやすい部分のみを利用しました。利用されない幹・根はそのまま放置されましたが、屋久杉は樹脂を非常に多く含んでおり 200~300 年たった今でも腐ることなく残っています。これを土埋木といい、貴重な屋久杉工芸品として利用しています。

次に説明があったのはヒメシヤラ、肌が茶色でツルツルの木だ。床材として利用するそう。我が家には床の間がないので、そのあたりのことは知らない。吊り橋を眼下に雨にぬれた木道や板張りの階段を進むと大きな杉が現れる、コース目玉の**仏陀杉**…樹齢 1.800 年、幹回り 8m、高さ 21.5m。3m ほどのところで二股に分かれているが、なぜ仏陀杉と名がついたのか説明はなかった。

さらに大きな切株をいくつも見て、幹が二つに分かれて立ち、丁度トンネルのようになった「くぐり杉」をくぐって、雨の木道を進む。雨は小ぶりになるような気配はなく降り続き、傘を片手に写真を撮るので思うように撮れない。くぐり杉からほどなくして吊り橋を渡るとヤクスギランドの 50 分コースを歩き終えた。私たちの歩いた 50 分コースは 1.2km、最長の 150 分コースは 3.0km の遊歩道が整備されている。バスに乗り込むときにはヤクシカも現れ、私たちを送ってくれた。



仏陀杉



紀元杉

## 10 樹齢 3,000 年の紀元杉

ヤクスギランドの見学を終えて、次は 30 分程移動して紀元杉の見学に向かう。ガイドさん曰く、ヤクスギランドは雨で歩くのが大変でしたが、紀元杉は大丈夫ですよ、バスを降りると紀元杉がありますと言う。

標高 1,230m にある紀元杉に到着しバスを降りると、隣にそびえていたのが紀元杉だった。樹齢 3,000 年、高さ 19.5m、幹回り 8.1m、階段を少し降りてそばまで行き、幹の周りを廻って見る。とても大きな木で神秘的であり何かしらパワーをもらえたような気がする。よくいう「気」を感じるというやつだ。今回は見られないが屋久杉の代表である「縄文杉」は、紀元杉の 2 倍の太さがあるという。紀元杉はバスでやってきて見学できるが、縄文杉は片道 4~5 時間歩かねばならず、一日かけて本格的な登山となるそうだ。

記念写真を撮ってもらい、11:45 紀元杉をあとにして昼食会場へ向かう。昼食は海岸通りまで戻り、屋久島郷土料理のトビウオ料理をいただく。大きなお土産店の 2 階が食堂になっていて、たくさんのテーブルとイスが並んでいる。ずらりと並んだ料理のメインは羽根を広げたトビウオの姿揚げだ。ガイドさんの説明では羽根の付け根の部分がおいしいとのこと。早速いただいてみる、特別に旨いとも思えないがなかなかおいしい魚だ、それに羽根も食べられる。そんなわけで屋久島の名物を一つ味わうことができた。

食事のあと店を出てみると、ハイビスカスの赤い花が咲く大通りは街路樹にシュロの木が並び南国の雰囲気が漂う。それに先ほどの雨はどこへやら、青い空も広がっている。

## 11 志戸子ガジュマル公園はジャングル気分

二日目最後の観光は屋久島の北の端に位置する志戸子、ここにある志戸子ガジュマル公園に向かう。ガジュマルとはクワ科の常緑高木で、熱帯アジアに広く分布し、幹から垂れた気根は、地について支柱になる独特の木です。イチヂクの仲間のアコウと同様、幹から多数の気根がたれ、それが土着してやがてはどれが元の幹か区別ができないようになる。沖縄では昔から精霊が宿る神木と言い伝えられ、大切にされてきました。屋久島では海岸線沿いに多く見られ、中でも志戸子ガジュマル公園ではうっそうと茂った群生が圧巻で、自生の北限地として知られています。



何とも奇妙な木である

狭い入口から森へ入っていくと、そこにはどれが幹なのか分からない異様な姿の大きな木が一杯だ。ツルがからんだようになってるのが気根で、幹から無数に垂れ下っている。気根は多雨のため土中ではなく、空中から空気呼吸するためと言われています。成長すると古い幹は枯れて気根が新しい幹となっていきます。そのためガジュマルは「歩く木」とも呼ばれています。

次から次へと現れるガジュマルは、まるでジャングルにいる気分になります。20分ほどで園内を一周し記念写真も撮って見学を終え、14:45 バスに乗り込み屋久島最後は観光センターへ立ち寄ります。いうまでもなくショッピングタイムです、屋久島を訪れたうちはぜひお土産をたくさんお買い求めくださいというわけ。留守を頼んだ娘たちに屋久杉のちょっとした小物を、私自身はペーパーナイフを記念に買い求めた。これで屋久島の観光をすべて終え宮の浦港へ向かう。

帰りは安房港ではなく宮之浦港から 16:20 のジェットfoilに乗る。17:05 種子島の西之表港へ到着し、南の端まで走って大和温泉ホテルに到着した。

## 12 ホテルの周りはカライモとサトウキビの畑

6:45 食事前にホテルの周りを少し散歩した。2階の部屋から見回すとカライモとサトウキビの畑が広がるのどかな風景だ。その中で目星をつけたサトウキビ畑をめざすことに。玄関を出るとすぐに交差点で、角にはガソリンスタンドがあって若いお兄さんが掃除をしていた。「おはよう」と声をかけると、おはようございますと丁寧に応えてくれた。横断歩道を渡って行くと、道端に大きなニチニチソウが咲いて



いた。そこから少し行くと何やら匂いがしてきた、思った通りでその先に牛小屋があった。そのあたりからはカライモの畑が広がっていた、こんなに広い畑だと収穫は機械で掘りだすのかな。そんなことを思いながら行くと、屋根つきの立派なお墓が道沿いにあった。とても立派な造りと感心した、ご先祖様を祀るにはこれくらいお金も使うのかな。その先で大通りから曲がるとサトウキビの畑があった。何年振りかに見るサトウキビだ、昔は運動会などでかじった思い出がある。でも、ガイドさんの話だと最近のサトウキビは甘くなった代わりに、皮が固くてとてもかじれないと言う。見た目は変わらないが、品質は目的に合わせて改良されているのだ。

写真を撮って帰り路でブーゲンビリア・ハイビスカスの赤い花や、名前の知らない黄色の花がきれいに咲く家を見つけた。その家も周りの家もみな平屋建てだった。



屋根つきの立派なお墓



カライモとサトウキビの畑

### 13 どこまでも碧い海と青い空の門倉岬

8:30 ホテルを出発して門倉岬へ向かう、島の最南端で鉄砲伝来の地だ。20分ほどで到着、バスを降りると緑の芝と碧い海、青い空が広がる門倉岬が迎えてくれる。門倉岬の碑と鉄砲をかまえる兵の像が置かれて、鉄砲伝来の地であることを語っている。その先、海の見える場所に「鉄砲伝来の碑」が立ち、高台の先端には漂着した明の船を模した展望台がある。

説明板には、天文12年(1543)8月25日見られぬ大きな異国船が一隻漂着した。どこの国から何の目的で来たのか、船の形も乗組員の顔も姿も異様で言葉も通じない人々であった。その船に赴かんとすると鉄砲を打ち放ち、その轟音に村人たちは



驚き騒然とした。西之村の地頭西村織部丞が明国の五峰と名乗る者と砂上にて筆談し、台風に巻き込まれてここについてたことをなんとか理解する。織部丞は早馬で赤尾木の島首に知らせ、異国船は赤尾木に曳かれていく。そして、乗組員はおよそ半年間滞在した...と記されている。

それにしても筆談でよく理解できたものと感心する、西之村の地頭西村織部丞はかなり学のある人だったようだ。岬の先端を一回りしたが、赤いハイビスカスが咲き乱れ、トンボが群がり飛んでいる。最後に、漂着した船を模して造った展望台に上がると、どこまでも碧い海と青い空が広がっていた。西の方には昨日行った屋久島の島影が浮かんで見えた。



左にあるのが鉄砲伝来の碑、右下は明の船が漂着した説明の碑

## 14 種子島あれこれ-2

9:00 門倉岬をあとにして種子島宇宙センターへ向かう、その間ガイドさんが通過する土地のことなどいろいろな話をしてくれる。

☆女性が髪にハイビスカスをつけるが、決まりがあって未婚者は左側、既婚者は右

側につける

☆本土の4島を除き橋の架かっていない島の大きさを比べると、屋久島が3番目で種子島は4番目と言う

☆子供たちは学校が長い間お休みになる時、家の手伝いが忙しい。春休みは田植え、夏休みは稲刈り、冬休みはサトウキビの収穫

☆モンキーバナナは年中とれる

☆人口 32,000 人で学校は 31 校、内訳は高校 2、中学 3、小学校 26.大きな学校は生徒 600 人、小さな学校は生徒 5 人の先生 5 人

☆生徒 11 人の花峰小学校にはインギー鶏が飼われている。この鶏は難破したイギリス人から譲り受けたもので、尾が内側にまいており尾がないように見える鶏

☆荃永地区ではコメの元祖といわれる赤米を作っている、全国でも長崎、岡山と種子島の3か所という

☆種子島に紅葉はない、ピンクの芙蓉の花が咲くと秋になる

☆お年寄り是一日に3回お墓参りをする、それというのも水を替えるため

☆家は台風の関係で平屋建が多い、それも寄棟の

☆ロケットの発射は年に2~4回あり、見学場所も3か所設置されている。ブースターの落下も見えるし、夜だと辺りを赤く染めてとても美しい

## 15 ロケット技術を紹介する「宇宙科学技術館」



宇宙科学技術館を背に



日本の実験棟「きぼう」

9:40 ころ宇宙科学技術館に到着すると大きなロケットが迎えてくれる。種子島宇宙センターというのは、観光客に宇宙へのロマンと文明の軌跡を目で見えるように

した施設「宇宙科学技術館」、小型ロケット発射場、中型ロケット発射場、大型ロケット発射場、中・大型ロケットの組み立て棟、第1・第2衛星組み立て棟、海上監視レーダー、総合司令塔などで構成されている。その中で自由に見学できるのが宇宙科学技術館である。ここには人工衛星やロケットのエンジン、そしてこれまでに打ち上げたロケットの模型も展示されており、その変遷が分かる。建物は2階建てで上に上がると、国際宇宙ステーションの日本の実験棟「きぼう」の実物大模型もある。中は普通に立って歩くことができるだけの空間が確保されている。こんなに大きな物を打ち上げているのかと驚く。

図らずも今日は鹿児島島の内の浦から、イプシロンロケットが打ち上げられる予定日だ。無事に打ち上げられることを期待したい。10:30 宇宙科学技術館を出て、発射場を展望することができる「ロケットの丘展望所」へ移動する。山あいのカーブした道を進むと大海原が見えてくる、この場所から大型ロケット・中型ロケットを発射する大崎射場を望むことができる。海に突き出た小さな岬に発射塔や組み立て棟が見える、その手前には碧い海とちいさな砂浜がある。ここからロケットの発射を見ることはできないようで、発射当日は3km以内立ち入り禁止になるという。しかし、今にも白い煙を吐きながら飛びあがっていくロケットが見えるようだ。



宇宙服を着て



大崎射場を望む

これで宇宙センターの見学を終えて、10:45 最後の観光は千座の岩屋へ向かう。

## 16 美しい海と砂浜

11:00 千座の岩屋へ到着する。駐車場から海岸に出ると、そこには青空の下に砂

浜が広がるすばらしい景色があった。その時上空にハングライダーが飛んでくるのが見え、一枚の絵を見るようであった。説明板には太平洋の荒波が長年にわたり造りだした海浜洞窟で、干潮時には洞窟内部に入ることができる。中はいくつにも枝分かれしていて、1,000人もの人が座れることから「千座の岩屋(ちくらのいわや)」と名づけられたとある。しかし、あいにく潮が満ちてきており中へ入ることはできなかった。広い砂浜には海水浴客相手の浮輪などを貸すテント小屋が、一つだけ人気のない砂浜にぽつんとある。どこかのポスターで見た絵のような景色だ。

こうして 11:25 すべての観光を終えた、このあと空港近くのゴルフ場へ移動して昼食となる。ゴルフ場で昼食は意外だったが、客の少ない大型施設を利用したのであろうが、よい所に目をつけたものだ。こうしてすべての予定をこなし、13:50 機内の人に。この時内の浦のロケット発射は中止になったことを知った。そして、15:30 県営名古屋空港に無事着陸して、今回の旅を終えた。